

## 語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 前米大統領の英語 (30) (A Basic Way of Reading Trump-Language)

後藤 寛

“We will be one people, under one God, saluting one American flag.” という音調も良い(euphonious)崇高な理念を示す演説を、大統領就任の前年 2016 年の 9 月に行ってもいる Trump 氏であったが、合わせて ‘putting the interests of all Americans first’ を信条とした Twitter 上での彼の書き物はすべて米国史上で後世に残る公文書である (本連載で見ている tweets をネット上で確認したい場合は、たとえば ‘Trump tweet’ と入力し同時にその確認したい tweet の文頭の数語程度を入力すればすべて検索できる)。

今回は本連載(26)の(1)で見た BUILD A WALL & CRIME WILL FALL! という音調の良い彼の標語の下、やはりメキシコ国境の壁に関する tweet 例を 1 つだけ扱ってみる。

Wacky Nut Job @Ann Coulter still hasn't figured out that, despite all odds and an entire Democrat Party of Far Left Radicals against me (not to mention certain Republicans who are sadly unwilling to fight), I am winning on the Border. Major sections of Wall are being built and renovated, with MUCH MORE to follow shortly. Tens of thousands of illegals are being apprehended (captured) at the Border and NOT allowed into our Country. With another President, millions would be pouring in. I am stopping an invasion as the Wall gets built. #MAGA (March 9, 2019)

▲ (文頭で原文は Wacky Nut Job @Ann Coulter, who still hasn't figured out that, ...となっていたので、ここでは Trump 氏の勘違いによるミスと判断し コンマ(,) と who を削除し修正しておいたが、その後ネット上で検索・確認したらやはりこれがミスと判断され修正の手が加えられている文を見つけ納得できた)。

やや長めの tweet である。また、普通は小文字書きの語も大文字書きで強調する相変わらずの Trump 氏らしい書き方スタイル(Trump orthography)である。

「バカな (女性作家で政治評論家の) Ann Coulter は国境問題は俺 (私) の勝ちだと分かっている、変な奴らと極左派の全民主党議員 (残念ながら対抗しようとしなない一部の与党共和党議員もそうではあるが) が反対していてもだ、壁の主たる部分は建てられつつあるし改装もされている、やがてさらに完成する、何万人という不法入国者が国境で拘束 (逮捕) されている、他の大統領だったら何百万人もがなだれ込んで来るだろう、俺 (私) は壁建設で侵入を防いでいるんだ」と Trump 氏がつぶやいていた内容である。

この tweet で「自分」のことをいう英語での中立語 “I” を “俺 (私)” としておいたが、“俺” と “私” の違いだけで全体の意味ニュアンスはどう変わるか？さらには一般に英文の “you” や他の語も状況に応じさまざまなスタイルの日本語に翻訳したらどうなるか？英語と日本語を並行させるための変換・翻訳上で出てくる意味の問題となり、日英語の専門的な対照研究(contrastive studies of English and Japanese)での面白い側面である。たとえば江戸時代の物語の日本語⇄英語は何かと興味深い。例に『忠臣蔵』などがある。

文頭で二重下線の Wacky Nut Job は彼女 Ann Coulter を形容する語であるが、文脈から負のイメージ語句だと推測すればよい。Basic 語 **nut** は本連載前々回(28)の tweet 例で「硬い頭→バカ」の意味ですで見えた。一方、英語に **the nuts and bolts** (ナットとボルト) という言い方があるが、留め金としての穴の開いたナットとそれに差し込む棒状のボルト

でセットとなり、たとえば the nuts-and-bolts of Básic Énglish (Basic 英語の基本) などと言える。これを Basic でサラリと言うなら the ABC of Básic Énglish でよい。bolt そのものを Basic で言うのであれば metal pin でよい [pin と日本語の「ピン」の違いに要注意]。

job は「物・事・人」の意味で幅広く用いられる英語的な語である。wacky の wack[wæk] はその音感から、擬音語(onomatopoeia)の whack[hwæk] (ピシヤリと打つ) の異形と考えるとよい。これが nut(s)とともに用いられているなら良い意味ではないはずと推測すればよい。Trump 前大統領は自分が良く思わない人物に対して頻繁に品のない形容語をなりふり構わず付け足すが、wacky nut job は要するに「バカげた (crazy な) 人物」の意味だろうと推理できればよい。実際にはきわめて侮辱的な言い方である。

太線語 figured の figure は本連載の前々回(28)でも扱った。「図形」の意味で「輪郭をとり、焦点を合わせ、作り上げていく」という語感がある [地図は現地ではない (地図≠現地) (A map is not the territory it represents. — A. Korzybski)が、言語的には「図」が figure で「地」が ground]。

un-Basic 語 figure は Basic 語 **fiction** と同系 [拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(46)参照]。figure out (理解する・分かる) はきわめて英語的な言い方である(cf. map out)。英語は入口(way in)ではなく常に出口(way out)を見つつ学びたいのであるが、figure out などこういう英語がすんなり使えるようになると出口に近いと言えよう。

太線語 entire は本連載(18)の(1)ですで見ましたが、entire {en (= not) + tire (= touch)} と構成要素分解され原義は「触れられていないこと」で、「無傷の、完全な、まったくの」の意味となる。「触ること」が原義(root sense)の Basic 語 **touch, take, taste, tax**、プラス  $\alpha$  Basic 語 **taxi, texture** (生地・織物)、**tissue** (ティッシュ)、un-Basic 語 **contact** (接触)、**tag** (付け札)、**tangent** (接線) などは同系。tax (税) は元来、**texture** (生地・織物) に触れて課された。また、**taxi** は税を課す機器を備えた乗り物で、to **take a taxi** (タクシーに乗る) という言い方はこれを象徴するものである [同上拙著、第二部、例(11)参照]。

次の太線語 apprehended (captured)の apprehend は comprehend (理解する) などとも同系で、語根部 **prehend** は「手でつかむこと」の意味をもつ。印欧祖語 PIE の etymon の音素形は/GHEND/が復元されている。Basic 語 **get, prison, surprise, price, etc.** (get には祖語の抽象的音素/G/の痕跡を見る)、またプラス  $\alpha$  Basic 語 **praise**、un-Basic 語 **prize, enterprise, appreciate** など[pr]音をもつ語と同系 [他の例は同上拙著、第二部、例(22)参照]。

apprehend より capture は意味は強い。capture は本連載(1)の⑥、(2)の②、(4)の②、(12)の冒頭、(18)の(1)で扱った PIE etymon の/KAP/に由来し、原義が「獲物の頭をつかむこと」で Basic 語 **keep, have, happy, etc.**、プラス  $\alpha$  Basic 語 **capacity, cattle, purchase, etc.**、un-Basic 語 **cap, cape, escape, capital, captive** (捕虜) [escape は外套を脱ぎ捨てて逃げること]、また **catch, chase, chapter, except, etc.** も同系 [同上拙著、第二部、例(2)参照]。

文中2つの下線(単線)の with は、これまでも特別に注目してきた広義の付帯状況で、どうしても用い方に慣れる必要があると言った。これに習熟すると英語での思考が楽になるはずなのである。この tweet 例も理解度を試す transcription (書写) 用にも良い。

ところで、本連載(9)でも例をいくつか出したのであるが、ここで新たに Trump 大統領(当時)に対する返信 retweets の他の例を出し若干のコメントを付してみることにする。

- 1) Putin's Puppet President : トランプが「プーチンの操り大統領」ということで、3つのPで韻を踏ませたもので、euphony (好音調) が効いている。
- 2) Show your rump to Trump. : rump (尻) と Trump が韻を踏む。これも好音調

(euphonious)となる〔なお、rhyme (韻) と Basic 語 **rhythm** (リズム) は同系語〕。

- 3) GOP : Government of Putin : 与党共和党(Republican Party)の別名 Grand Old Party (GOP)をもじり、Government of Putin としている。
- 4) You can't spell "treason" without "a son". : treason (反逆罪) の語中の a son と a son が掛けてあるが、この a son とは Trump 氏の息子 (長男) のことと解せる。
- 5) You can't spell HATRED without a RED HAT. : hatred (憎悪) の文字配列を替えると red hat (赤帽子)。MAGA の文字の入った red hat は与党共和党のシンボル。
- 6) Build a wall around Trump. I'll pay for it. : Trump を閉じ込める壁を造れ、俺がその壁の支払いはしてやるということであるが、Trump 氏は在任当初から国境の壁はメキシコ側が払えと主張していた。
- 7) (2016) Trump : Hillary must be corrupt because the FBI is investigating her.  
(2018) Trump : The FBI must be corrupt because they are investigating me.  
: ロシア共謀・疑惑をめぐり Trump 氏の独白の形で想定された retweets である。FBI による捜査で Hillary Clinton が腐敗していることと、自分を捜査する FBI が腐敗していることを、2016 年と 2018 の段階での心中の変化として対比している。
- 8) Mr. President, we can solve this puzzle. R \_ SSIAN COLL \_ SION. It's U. :  
「ロシア共謀」の意味となるよう空所に文字 U を入れるパズル。末尾の U は you。
- 9) Your mouth is the FAKE NEWS outlet of America. Real Eyes Realize Real Lies. :  
文中 2 つの real と realize 中の real、また eyes と lies が掛けてある。
- 10) Here's to Donald Trump ! May your presidency be short and your prison term be long ! : D. Trump に乾杯 ! あなたの大統領任期が短くあり、刑期が長くありますよう ! という皮肉的なもの。
- 11) Good news is, you're not under investigation anymore. Bad news is, you're under arrest. : good news としてはお前の捜査はもうない、bad news としてはお前は逮捕だ、と言っているもの。
- 12) It was me ! I'm responsible for Donald Trump getting elected, not the Russians, not the electoral college. It was me ! I voted for him. : D. Trump に票を入れ当選させたのはロシア人でも選挙人団の責任でもない ! 彼に票を入れ当選させた私自身の責任だ ! というやはり皮肉的な返信。

これらの返信例からネイティブの英語力はさすがであることが改めて分かる。最後の 12)での electoral college は単に college とも言うが、「選挙人団」の意味で常識的に用いられる語である。Basic では college は「大学」の意味で用いるプラス  $\alpha$  Basic 語である (college は 15 語の国際名称語中の 1 語、cf. *university* は 101 語の国際語彙中の 1 語)。college の PIE etymon は/LEGH/で、原義は「選別されていること」である。Basic 語 **selection, law** など、un-Basic 語 election, collect, delegate, neglect, elite, legal, legitimate, privilege, elegant, legend, catalog(ue)なども同系〔同上拙著、第二部、例(87)参照〕。

いずれにせよ、これらはどれも反 Trump ・反与党共和党へ向けられた返信であったが、中には親共和党のものもあり、たとえば Vote red, or America will be dead. 「赤 (共和党) に投票しないとアメリカは死ぬ」は red と dead に [ed] の韻を踏ませたもの。

ところで、こういう返信 retweets に関して以前 [本連載(9)の末尾で]、Trump has two parts of brain, 'left' and 'right'. In the left side, there's nothing right. In the right side, there's nothing left. という例を引き合いに出した。そのときこれを傑作で完璧な Basic 文

